

昨年度終了式代表生徒の言葉から今年度を考える

校長 野口祐人

昨年度の修了式で、代表生徒3名が「1年を振り返って」という作文を発表しました。その中の言葉から、今年度を考えてみたいと思います。

1 コロナ禍で過ごした1年間について

コロナ禍で、学校に行くという当たり前のことが当たり前でなくなったこの1年。1年生の私たちは中学校生活自体が新しい体験でしたが、感染予防を考えた新しい生活様式の中で、様々なことを試行錯誤した1年でした。（中略）今年には特に、当たり前のことを当たり前に行えるありがたみを知った1年になりました。行事一つを行うにしても、感染対策を十分にして、できる範囲で楽しむことを学びました。コロナ禍だからこそ、新しい取組をすることもあり、そう考えると充実した1年でした。

行事は、学年体育祭のみとなってしまいましたが、日常生活の中で友達との仲を深められ、短い1年間で今まで以上に充実させることができました。

たぶん、コロナが始まることなく、ふだん通りだったら、ぼくは、仲間や学校生活の大切さに気づかなかったかもしれません、立ち止まって考えられたこの1年を無駄にはせず、仲間と一緒にけやき・ひのき学級を引っ張っていける3年生になりたいです。

3人の生徒が話してくれた通り、「当たり前のことが当たり前に行える大切さ」に気づいた1年となりました。この気づきは大きな気づきだったと思います。これからの生活の中で、この気づきを生かしていくことができれば、深澤君も話しているように、この1年が無駄にはならないと思います。ふだんの生活の中に、大切な当たり前があったことを忘れず、この1年も歩んでいけたらと思います。

2 学校での取組について

西中での取組としてフォーサイト（スケジュール機能付き手帳）の活用があります。テスト日程から学習の計画を立て、休日の過ごし方を見直しています。「次にこれが必要だから準備しておこう」と計画を立てて行動するようになりました。

今年度から単元テストになったことで、昨年度から勉強の進め方が変わりました。ホワイトボード（各学年に設置）を見て、計画を立てて勉強するようになりました。「この日は習いごとがあるから、今日中にワークを終わらせよう。」「テストが重なっているから早めに勉強しよう。」など、この1年で計画性を持つようになりました。また、定期テストでは無かった再チャレンジテストがあるので、できなかったところをもう一度確認することができ、より一層理解を深めることができました。

西中で始めた新しい取組を、このように前向きに捉え、自分の成長に生かしている姿に感心します。「できなかったことをできるようにする」、「わからなかったことをわかるようにする」といった学習本来の目的をこれからも大切にしてもらえればと思います。そして、学力を高めるためにも、どうしても必要となる自律の力をこれからも養ってほしいと思います。フォーサイトの活用もノーチャイムも目指すところは一緒です。自分で自分をコントロールする自律の力をつけなければこれからの時代を乗り越えていけないかもしれません。なりたい自分になるために、自律の力をつけていってください。まだまだ先行き不透明な時代が続くそうです。限られた状況の中で、今できることを大切にしながら、この1年を一緒に頑張っていきたいと思います。